

## 付 録 3

### 予備的面接調査の結果

### 付録3 予備的面接調査の結果

#### 1. 調査の概要

進路指導担当者および進路指導カウンセラーを対象とする予備的な面接調査の目的は、進路指導の概要、生徒の進路展望の特徴、進路選択に影響を与える要因について明らかにすることである。また、予備調査は、今後の本調査の対象とすべき州と学校種別を絞り込む目的もある。調査対象となる州は、マレー人よりもやや華人が多いペラ州 (Negri Perak : Perak State) と人口の大半が華人であるペナン州 (Negri Pinang : Pinang State)、人口の大半がマレー人であるクランタン州 (Negri Kelantan : Kelantan State) の3州である。また、調査対象となる学校は計4校である。

面接では、各々の進路指導担当者もしくはカウンセラー（多くは兼任）に約1時間から2時間ずつを費やし、マレー語もしくは英語により調査対象者に自由に話してもらう形式を採用した（2001年9月中旬～下旬）。各々の調査対象者に対する質問項目は、学校概要と進路に関する質問の大きく次の2つに分けられる。;

- a. 学校概要：学校名、生徒数、フォーム・シックスの有無<sup>1</sup>
- b. 進路の概要
  - (i) 進路指導担当者・カウンセラーの仕事：カウンセラーの資格、進路指導カウンセラーの仕事（日常、年間）等。
  - (ii) 具体的な進路の傾向：大学、大学予科、フォーム・シックス、私立カレッジ、就職等。
  - (iii) 進路選択に影響すると考えられる要因：文化・宗教、親、友人・メディアなどを手掛かりとして。
  - (iv) 進路展望の男女差、エスニシティ差、居住地差 等。

## 2. 調査の結果

### (1) マリム・ナワール中等学校

フォーム・トゥーからフォーム・ファイブまで 35 クラスに合計 905 人（男子 442 人、女子 463 人）の生徒がおり<sup>2</sup>、成績別のクラス編成（ストリーミングクラス）を採用している<sup>3</sup>。教師は、男性 32 人（マレー人 23 人、華人 6 人、インド人 3 人）、女性 30 人（マレー人 25 人、華人 4 人、インド人 1 人）という構成である。時間割は、午前中 1 から 10 時限目まで、7 時 30 分から 2 時 5 分までである。基本的に 1 コマ 40 分（昼食後 35 分）で授業を行うが、2 コマ通す授業もある。午前のクラスが終了する頃に午後のクラスが始まる。学校は小都市に位置するが、生徒のほとんどは農村地区から来ている。親の職業も農業もしくは自営業が多い。

調査対象者である K 氏（マレー人、40 代女性）<sup>4</sup>によると、全寮制学校ではカウンセラーが 2～3 人いるが、（本校のような）“普通の学校”では専門的な技術を持つカウンセラーが少ない。生徒はあまりカウンセリング室に来て相談しようとしなない。欧米の人に比べて何でもオープンに話すことをよしとしない傾向にあることが理由であろう。本校は、小都市に位置し平均的な生徒が多い。フォーム・ファイブの半分以下が高等教育（大学、大学予備、私立カレッジ）に行く（がその他は進まない）。

進路選択をする際に影響を与える要因は、親の給料、地位の高さ、知識などである。親は中間層以下が多い。私見では、華人はお金が最も重要であると考えため、男子は教育よりも就職を考える傾向にある。一方、マレー人はお金を華人ほど重要だと思わない。（進路選択に対する友人の影響について）この学校では、学校の友人と放課後遊ぶ友人が異なることがある。都市と違って学校から家が遠いことが理由の一つだろう。（クアラ・ルンプールだと学校の友人の居住地が近いので学校の友人がそのまま放課後一緒に遊ぶ友人になる）そのため、学校の友人の影響はあまりない。

（大学に女性の数が多いのに驚いたことを伝えると）大学だけでなく高校でも女子生徒数は多い。特に農村地区では、積極的に活動するのは女子の方が多い。その理由は分からないし、私が女性であるからかもしれない。クアラ・ルンプールの生徒に比べて美術に興味がある生徒が少ない。現在手工芸（Crafts）を教えているが、生徒のほとんどがこれまで習ったことがないため、あまり興味を持たないことに落胆している。クアラ・ルンプ

ールで教えていた時の生徒の成績は普通だったが、本校の生徒に比べて美術に対して感受性が強い生徒が多かった。その背景として、都市の方が農村より情報が多いことが指摘できる。

## (2) ペイ・ユエン中等学校

フォーム・ファイブまでである学校でそのほとんどを華人が占める、いわゆる華人学校である。広東語を話す生徒が多いが、学校では教授言語である北京語をできる限り話すよう指導される。授業中のクラスでは男女別に座る一方、食事中やその他の活動時に、女子のグループと男子のグループとが分かれていない<sup>5</sup>。午前の部・午後の部を合わせて1,799人の生徒（男子859人、女子940人）が通う。クラスは37クラスで、教師は89人（男性33人、女性56人）おり、教師対生徒の比は1:20である。独立華文学校と敷地を共有し、PTAが積極的に活動している。また、成績別のクラス編成を採用している。

調査対象者であるL氏（華人、20代女性）<sup>6</sup>によると、マレーシア政府の政策で生徒500人につき1人カウンセラーを配置するようになったため、次年度に4人のカウンセラーが来る予定で、その内2人は既に規定のコースを修了しており、他の2人は配置された後に規定のコースを受講する予定である。進路指導カウンセラーが生徒から受ける相談内容は、家族、恋愛、友人のことなど様々である。通常フォーム・ファイブの生徒が進路相談に来ることが多い。相談を希望する場合、生徒は指定されたフォームに記入してそれを専用のポストに入れる。依頼を受けたカウンセラーは、2、3週間その生徒の様子を観察しながら生徒から直接相談を受ける。

ペイ・ユエンからは、私立カレッジに行く生徒が60%ほどいる。中でも、トUNK・アブドゥール・ラーマン・カレッジ (Kolej Tunku Abdul Rahman: KTAR) やイポー、クアラ・ルンプールの私立カレッジに行く生徒が多い。特に、生徒に人気がある専攻は会計学、商学、工学である。マレーシア教育証書試験 (SPM) の後で大学に進学できる生徒はわずか2、3人で、スリ・カンパー (Seri Kampar) のマレーシア工業大学 (Universiti Teknologi Malaysia : UTM) にのみ行ける。その他は、スリ・カンパーのフォーム・シックスに行く。マレーシア上級教育証書の後に大学に行く人もいるが、正確な人数は把握していない。(私立カレッジに行く生徒以外の) 40%の中にはシンガポールで就職する生徒もいる。

進路指導する際に、就職したり私立カレッジに進学したりするためにシンガポールに行

くことは、生徒の状況に応じて勧めることにしている。地元のカンパーには仕事がないため、両親がシンガポールなど海外で働いている場合も多いからである。両親と共に暮らしていない生徒の中には祖父母と住んでいる生徒もあり、概して生徒指導の必要な問題のある生徒が多い。

(進路選択には) 友達同士の影響がとても強い。ある生徒に尋ねると、「友達が行くからクアラ・ルンプールに行きたい」と言っていた。インターネットなどのメディアの影響もあるが、あまり確かではない。もちろん試験の成績の影響も大きい。進路に男女差はないので、進路指導の方法を男女によって変える必要はない。両親の影響は、親の居住地の近くで勉強してほしいと思っている人も多いことであろう。

### (3) ペナン・メソジスト男子中等学校

華人が多い 1,000 人規模の学校で、ペナン島の都市に位置する。リムーブ・クラスからフォーム・シックスまでのクラスがある。学校名の通り、生徒のほとんどが男子であり、大半が男子クラスであるが、フォーム・シックスは男女共学クラスで、それぞれ人文科学系コースと自然科学系コースが 3 クラスずつある。毎年、卒業生の過半数が高等教育に進学する。

調査対象者であるO氏（華人、30 代男性）<sup>7</sup>によると、カウンセラーの仕事は、フォーム・シックスに入って間もない生徒にオリエンテーションをすることから始まる。カリキュラムの中に進路指導の時間は組み込まれておらず、統一試験が終わった 2 月末から 3 月にかけて相談業務に追われて特に忙しくなる。それ以外の通常業務は、奨学金を給付する会社関係者を招聘する仕事などである。生徒の間では、マレーシア北大学 (Universiti Utara Malaysia : UUM) の商学や会計学の人気が高い。こうした生徒の進路選択には、テストの結果が一番影響しているようである。もちろん、親の影響や友達の影響もとても強い。また、一部の人には広告の影響が強いと思うが、概してメディアの影響は大きくない。

華人の家族でも、若い世代は家族規模が小さく、子どもの教育を男女で分けるということとはなくなったが、前の世代は違う。また、外国に留学する華人の生徒は両親が裕福であることが多い。ただし一般的に華人の家族で、お金がなくても教育に対する期待度が高いのは、与えられる機会がマレー人とは違うからだと思う。特に華人が教育に価値を置くのは、儒教の影響で以前は教師が特権的で尊敬されるような職業であったからであろう。イ

インド人生徒は、成績がよい生徒とそうでない生徒の差が激しく、成績がよい生徒は医者や弁護士になる。インド人生徒の進路選択にも生徒の成績が影響しており、両親の影響も強い。

さらに、ペナン・メソジスト校において、フォーム・シックスの生徒には女子が多い。私見では、男子はたとえ成績が良くても大学に行くことにあまり価値を見出さないからであると思う。より冒険的で、働いてお金を稼ぐことができるビジネスに価値を見出す（ためフォーム・シックスに進まない）<sup>8</sup>。

都市と比べて農村では進路選択の幅と視野が狭いと思う。以前スランゴール（Selangor）とペラ州で勤務していた時に、学校に様々な分野の人を招聘しようとしたが、周囲の理解を得ることが難しかったが（ペナンでは異なる）。

#### (4) ハミド・カーン中等学校

ハミド・カーン中等学校は、リムーブ・クラスからフォーム・ファイブまで男女共学で、男子 275 名、女子 556 名、合計 831 名と女子生徒の方が多い。フォーム・シックスのクラスはなく、ペナン島メソジスト男子中等学校より学校規模は小さい。

調査対象者であるL氏（華人、40 代女性）<sup>9</sup>は、科目担当と進路指導カウンセラーの業務とを兼任している。通常、進路指導室で個人的な問題や、学業に関する問題などの相談を受ける。相談の中には、とりわけ周囲から様々なプレッシャーを感じている生徒からの相談が多い。以前（自らが大学に行っていた 20 年ほど前）に比べて大学が増えたため、受験競争が激しくなり、より高い得点を獲得しなければ大学に入れなというプレッシャーが、最近の生徒にはあるためだろう。また、就職に情報技術（Information Technology : IT）分野など、技術が必要な職業が増えたため、卒業後に進学する人が増えてきたことも背景にある。

ハミド・カーン中等学校の生徒の中には、卒業後、主に、フォーム・シックスやマレーシア工業大学（UTM）の統合プログラム（Integrasi Program/Integration Program、自然科学系対象）や私立カレッジに進学したり、技術訓練のためにペナン技術開発センター（Pinang Skills Development Center : PSDC）でコースを受講したりする生徒が多い。自然科学系か人文科学系かを選ぶコース選択はフォーム・スリーの後既に決まるが、より高い成績の生徒が自然科学系に、より低い成績の生徒が人文科学系に行く。また、男子が

自然科学系に、女子が人文科学系に行く傾向も根強く残る。生徒が進路選択を意識し、進路を決めるのはフォーム・ファイブの間である。

そして、その進路選択には親の経済力が影響する。経済力のある家庭に育った生徒は、私立のカレッジに行く。また、(経済的な意味での) 中間層は、フォーム・シックスやUTMに行く。一方、学力的に低い生徒は、(前出のような) 技術訓練校に行く。両親の経済力と(子どもに対する) 期待の他に、両親の教育レベルも子どもの進路選択に影響を与えている。最近とは違って、お金を貯めて子どもに教育を受けさせていた20年前は、家族の規模が大きく、女子よりも男子の教育を優先する傾向にあったと思う。友人同士の影響は年齢が高くなるほど強くなる。メディアの影響は、政府の肝いりでITを宣伝することや、労働市場の動向に関する報道が進路選択に影響を与えている<sup>10</sup>。

(最近フォーム・シックスや大学に進学する女子が多い理由に関して) 男子学生は怠慢であるだけでなく、冒険的で成功することを望むために、商売の機会を得ることに(教育よりも) 魅力を感じる傾向にある。男子と異なり女子は、教師に従いながら勉強することを心地よいと感じる。特にペナンは工場が多いため、大学を卒業した学生よりも商売する方が給料がよくなることがある。

## 註

- 1 後期中等学校のフォーム・ファイブを修了した後に大学進学を希望する場合、中等後教育として各大学に付属するマトリキュレーションに進学する場合と、中等学校に設置されるフォーム・シックスに進学する場合がある。フォーム・シックスは、全ての中等学校に設置されていない。
- 2 その内訳は、フォーム・トゥー (男子 102 人、女子 113 人、計 215 人)、フォーム・スリー (男子 135 人、女子 124 人、計 259 人)、フォーム・フォー (男子 100 人、女子 102 人、計 202 人)、フォーム 5 (男子 105 人、女子 124 人、229 人) である。
- 3 マレー人が多いクラスでは男子と女子は隣に座っておらず、エスニック集団別に幾つかのパートに分かれて座っている。筆者が参加した授業において、教育の男女差に関してフォーム・ファイブの生徒に意見を求めると、「男女差がない」と答える生徒がほとんどであった。冗談で「女性は家で料理をしていればいい」と言った男子生徒に対して、「違うよ」と言った女子生徒が多かった。
- 4 筆者が訪問した日にカウンセラーが病気で休みのため、時々進路指導を担当している英語兼美術の先生がインタビューに応じてくれた。氏は、マラヤ大学 (Universiti Malaya : UM) の TESL (Teaching English as Second Language) でディプロマ (2 年) を取得した後、教員養成学校で3年間の訓練を受け、美術 (Fine Arts) でディグリーを取得した。本校に赴任して1年目だが、元々クアラ・ルンプール (Kuala Lumpur : KL) 近郊で6年間教えており、田舎にあるこの学校では教えたくないと思っている。
- 5 クラス内の席は自ら選ぶことができる。隣同士になるのは同性であるが、主に2人ずつ

- 
- 組になった男女が交互に並ぶ。授業中により活動的に発言をするのは男子であるが、必ずしも女子の発言が少ないというわけではない。
- 6 フォーム・ファイブが通う午前部のカウンセラーに対して面接を実施した。マレーシア科学大学 (Universiti Sains Malaysia:USM) を卒業した後、2年間カウンセリングを担当している。カウンセリングの専門的な教育を受けたわけではないが、短期間のコースを随時受講した。カウンセリング以外に、フォーム・フォーとフォーム・ファイブの生徒に対して、マレー語と道徳 (Moral) を週に24コマ分教えている。マレー人のカウンセラーが、9月から3ヶ月間、実地訓練でカウンセリングを担当しているため、生徒は先にそのカウンセラーの所に相談に訪れることになっている。ただし、マレー語を十分に理解できない生徒の相談を (マレー人のカウンセラーに代わって) 受け持つことがある。
  - 7 O氏は、心理学分野でマレーシア理科大学 (Universiti Sains Malaysia:USM) のマスターを修了しており、進路指導カウンセリングの仕事を大変意欲的に活動を進めている。本学に赴任して1年目であるが、以前は教員養成カレッジで教師教育を担当した。
  - 8 筆者が試験と試験の間の休憩時間中に、華人女子生徒 (フォーム・シックス) にインタビューしたところ、異口同音に「進路選択はテストの結果による」と言い、「華人だから商売したいのではなく、人によって違う」と答えた。その他に、「親はあまり『女の子だから』と男の子と区別はせず、本人のしたいようにされてくれる」とも述べた。
  - 9 29年の教員歴があるベテランの教員である。1時限40分の授業を週に4コマから6コマ担当する歴史の教員だが、パートタイムとして進路指導も担当している。マレーシアでは、フルタイムのカウンセラーも専門的な技術を持ったカウンセラーも少ない。したがって、氏のように訓練コースを受講してからパートタイムでカウンセラーをする人が多い。
  - 10 ITメディアによる宣伝の一例として、筆者がマレーシアのマラヤ大学に留学していた1998年から1999年に、「IT, IT…」というメロディ付きのコマーシャルが、テレビやラジオで頻繁に流されていた。